

ソニーグループ株式会社は、五十嵐卓也氏を W3C Advisory Board(以下 AB)の再任候補として推薦いたします。

五十嵐氏は、ソニーに於いて長い間マルチメディアとネットワークの業務に従事し、W3C でもソニーの Advisory Committee(以下 AC)代表や「Media and Entertainment Interest Group」の共同議長を務め、現職の AB メンバーです。業界主導のフォーラムの設立と運営についても経験と専門知識を持ち合わせています。

ソニーは、五十嵐氏が W3C の AB に再任することを支持し、W3C メンバーと Web コミュニティを支援するために必要な専門知識を持って貢献できることを確信しております。

五十嵐氏の選挙表明は以下の通りです。

私の AB 一期目の任期が終わろうとしております。

約 2 年前に AB メンバーに就任した当時、COVID-19 のパンデミックがここまで拡大し、世界の人々の暮らしや経済活動に多大な影響を及ぼすことは想像もしておりませんでした。人々の行動が制限されるこの困難な状況において、インターネットや Web のインフラは社会にとってなくてはならないものであることを、あらためて痛感しました。同時に、Web 技術標準化携わる一技術者としても、AB メンバーとしても、今後も W3C の活動を継続させ、地球上のすべての人々の生活、社会、経済活動に役立つように Web 技術を発展させる貢献をしていきたいと強く願うようになりました。

私が前回の AB 選挙に立候補した際には、Legal Entity への移行を成功させることと、Web コミュニティへのグローバルな参加とインクルージョンに貢献していくことを表明させていただきました。

Legal Entity への移行は当初の想定より遅れておりますが、他の AB メンバー・W3C チームスタッフと共に、望ましいガバナンスモデルなどについて継続議論を行っております。私は、今後も、「One Web」を実現し、また、様々な国や地域の人々の暮らし、文化、経済活動をサポートしていくためには、将来 W3C を運営する Legal Entity の取締役やマネージメントも、地域の多様性やインクルージョンを尊重するリーダーシップを発揮していただく必要があると考えております。28 年前に W3C が設立されて以来、米国、欧州、アジアに置かれた大学、研究機関のホストによる共同運営により、グローバルで、かつ地域ごとに分権されたオペレーションの下で、Web 技術の標準化が推進されてきました。Legal Entity の議論では、全メンバーを中心としたガバナンスのもと、グローバルなオペレーションのリーダーシップを強化しながらも、地域ごとに適した標準化活動の推進を両立させることで、W3C がグローバルな標準化団体としてさらに発展できるような運営体制になるように、今までも進言してまいりました。

また、Web コミュニティのグローバル化、インクルージョンの観点では、アジア圏における AC コミュニティへの積極的参加を推進する目的で、リモート会議のタイムゾーン課題の解決について取り組みました。コロナ禍で AC 会議や TPAC 会議が欧米の時間帯にあわせてリモートで開催されたことが、アジア、オセアニア、インド、中東の参加者に不便を強いているという声を聴いてきたからです。そのため、日本の

AC メンバーに調査を行い、AB 会議において課題の共有を図り、W3C management の協力を得た結果、タイムゾーンを考慮した会議の開催に関するガイドラインを作成することができました。ただ、タイムゾーン課題には完全な解はなく、基本的には、会議の主催者が参加者のタイムゾーンを配慮して公平になるように時間設定をする、もしくは、時間帯をローテーションするなどの自発的な対応にゆだねるしかありません。私は一つのアファーマティブアクションとして、W3C の Group 定例リモート会議の開催時間と参加者のタイムゾーンをメンバーに開示し、課題意識を想起させることで、タイムゾーン課題の不便を少しでも是正できないかと考えております。

言語の障壁ももっと取り払わなければなりません。現在、AC のリモート会議では中国語、日本語、韓国語の同時通訳を行っていただけるようになりました。しかしながら、同時通訳は費用面で負担となっていると聞いています。パンデミック後の対面会議も継続して、同時通訳を同じように導入できるのかわかりません。加えて、標準化活動の現場である Group の会議にも non-native English speakersの方が会議に参加しやすい環境を作っていかなければなりません。そのため、私は、リモートや対面という会議の形式に関わらず、Group が希望すれば、Zoom などの Auto English Caption 機能を利用できるようにする提案を考えています。これは、同時通訳より安価で、英語での議論を妨げることなく、non-native speaker が英語会話の理解するのを助けることができます。

最後に、私の経歴は前回の選挙表明の際に記載いたしましたが、Web ブラウザNCSA Mosaic を見て、1995 年に HTML ブラウザを搭載したインターネット端末を開発したのが始まりです。以来、Web のポテンシャルを信じ、Web 技術の研究開発を続けてきました。2010 年からは研究開発に加えて、放送標準化や W3C の標準化活動を行ってきましたが、今年 4 月に研究開発部門から全社の標準化を担当する部門に異動し、W3C 標準化活動の推進に注力しています。AB に再選した暁には、これまで以上に、W3C の標準活動に貢献していきたいと思っております。皆様の選挙でのサポートに感謝いたします。